

里中尚子と水島先生

成人向





03





たくさん出ましたね

先生…



先生？



だからもう
こんな...

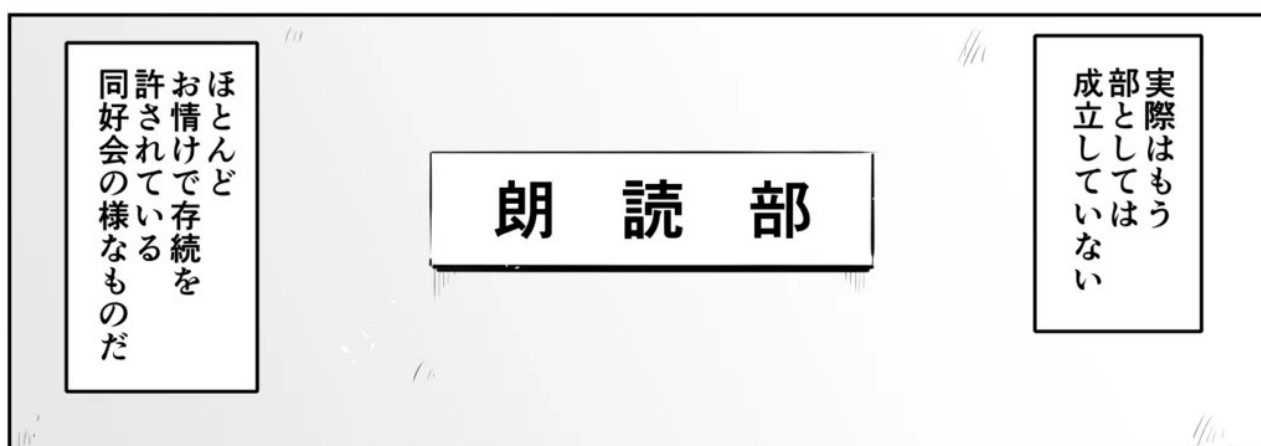
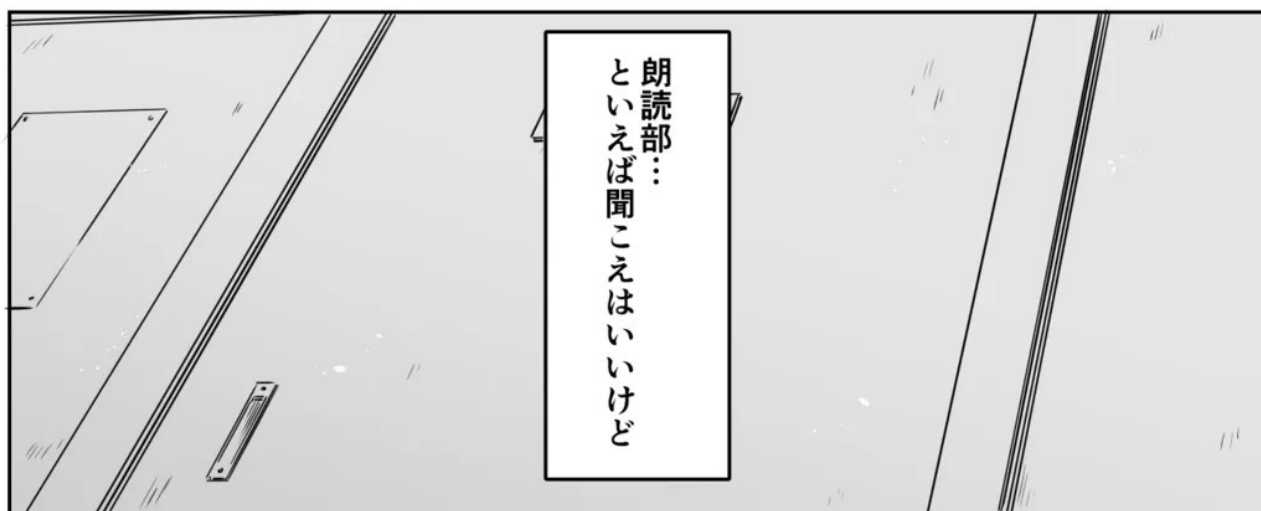


06



里中尚子と水島先生

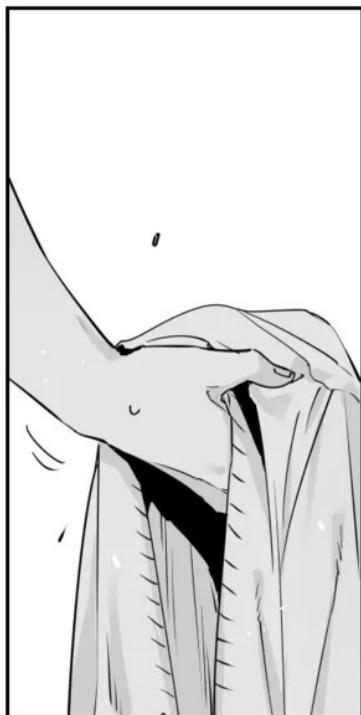
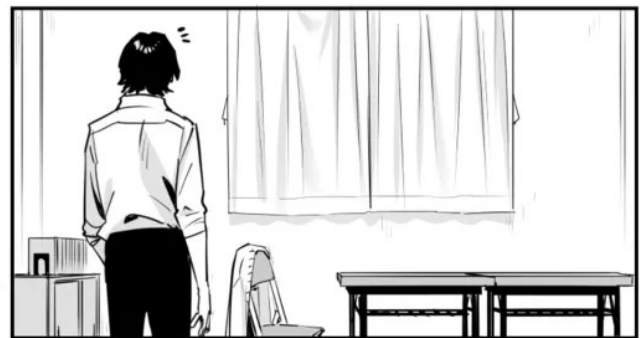
ED

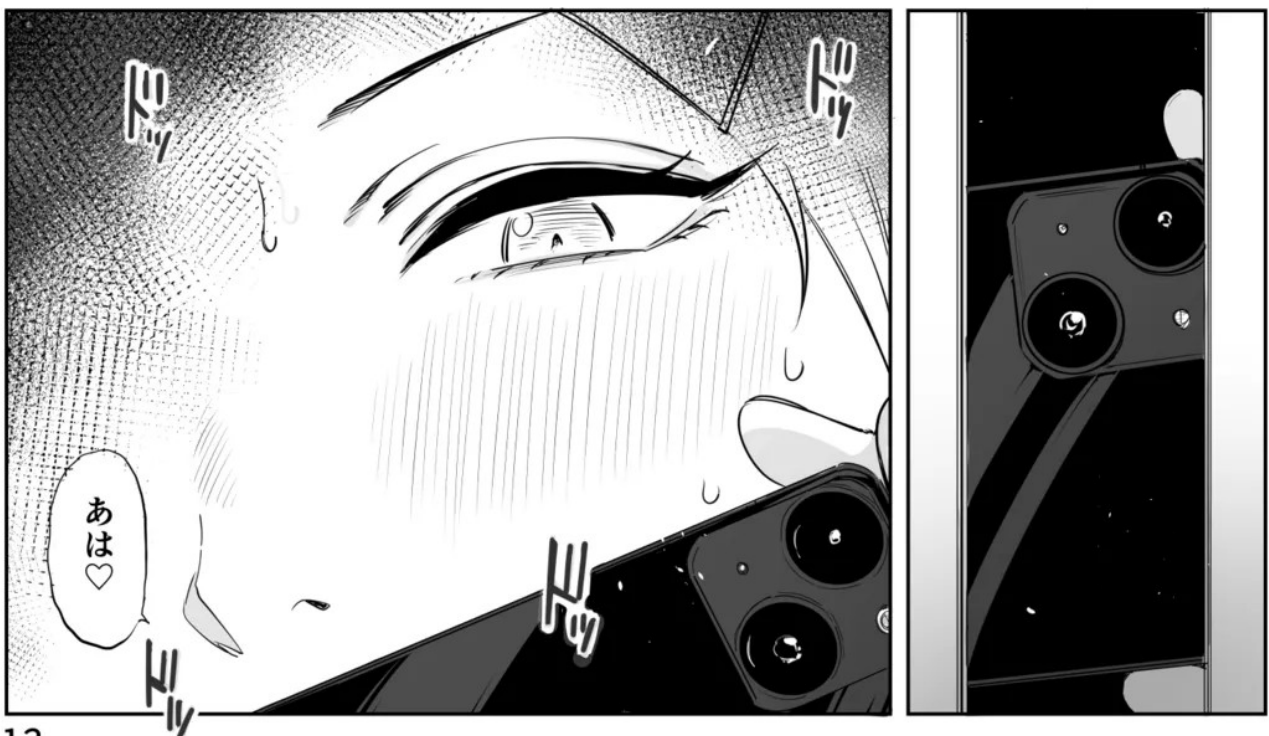














そのままカギを閉めて
帰っていった



部室から出てきた先生は
特に何も持っておらず

カギ



カーディガンを持ち帰る等
してくれるのではないかと
密かに期待をしていたが

それは流石に
高望みだったようだ――



先生が
私のカーディガンに
手を出したという事が
大きな収穫だ...



普段私に対し
あれだけ気のないふりを
し続けている人だ...

匂いを嗅ぐなんて行動を
取っただけでも先生にとって
とんでもない事なのかもしれない

キィ...







私は先生が大好きなのだ



勘違いして
ほしくないのだが

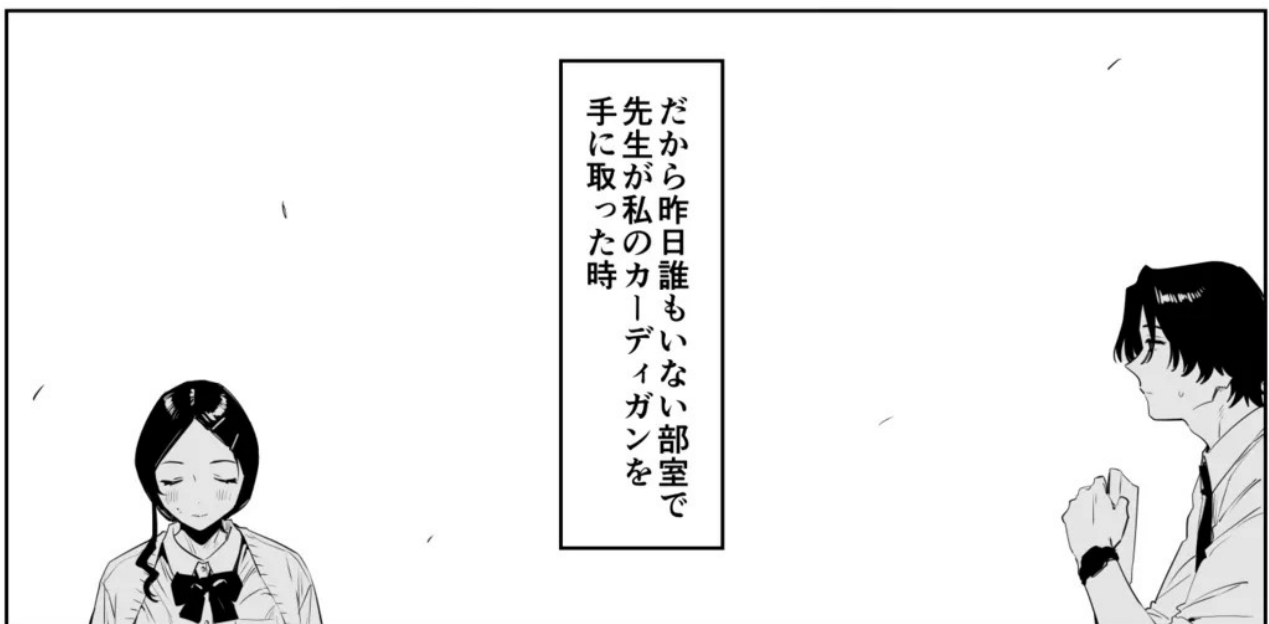
？



一年の時に入部して
三年になって二人きりの
部になってから今まで

私などには
全く興味がないのだと
ずっと思っていたから…

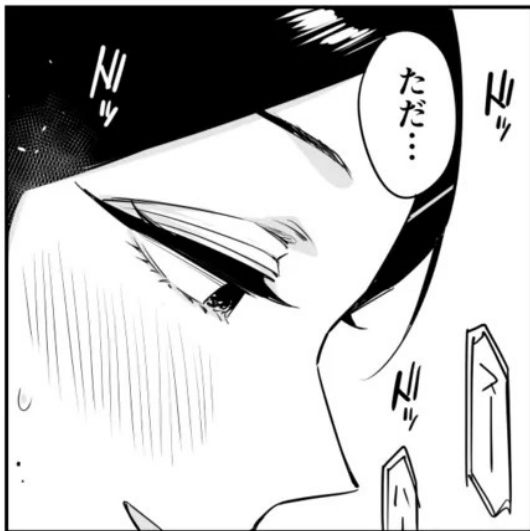
キッ...

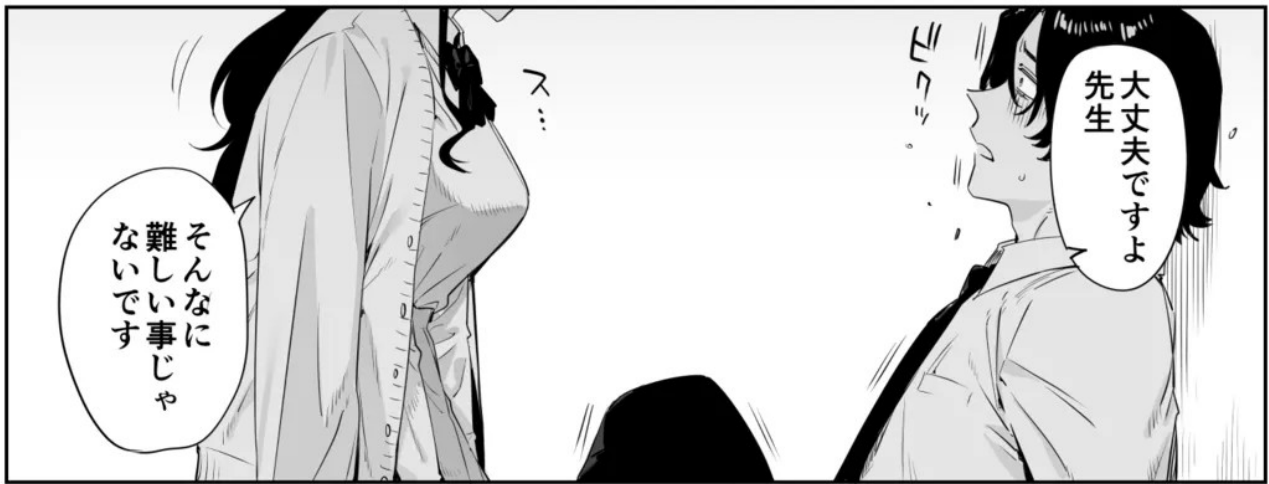


だから昨日誰もいない部室で
先生が私のカーディガンを
手に取った時











22













里中尚子

水島先生

—
目
目
—



だが 緊張していたのか

翌日
先生は約束を守り部屋に来た
逃げたりはしなかった

ダメだ…

里中…

ハア…

うみ

ハア…

結局最後まで
射精には至れず

初日は終わった



今日の分は
ノーカンですね
先生

うう…





先生は最初に条件に出し
触ってもいいとした肩にも
触れて来ることは無かった

今日は
帰ります…

また明日
よろしく
お願いしますね

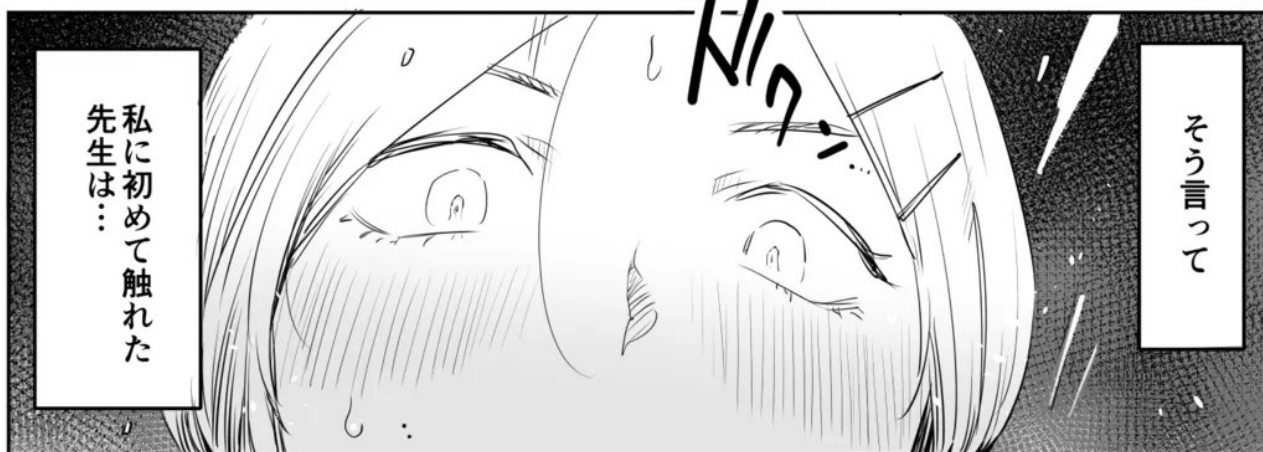
それともそういうもの
なのだろうか…
私は少し
ショックを受けていた

先生が我慢しきれず
私を襲ってくるまでは
簡単では無いだろうと
覚悟の上だったが

少なくとも
私に興奮する様を
見る事くらいは…と
思っていたので
まさか勃起すら
してもらえ無いとは…

ガッ…







水島先生の手形：



昨日やっとな回と思うと
十回というのは確かに
少し酷かもしれないね

五目

先生なので
私考えなんです

今日からは私も少し
お手伝い…しますね

私などのでは
嬉しくないかもしれ
ませんが…





先生が私のどこを気に入ったのか
見当もつかないが…
先生は私に触れることで
近づくことで自分が抑えられなく
なる事が怖かったのかもしれない

かといって離れるために
部を解散することもできず…

39



私と同じで先生もまた
こんなチャンスが巡ってくるなんて
思いもよらなかったのかもしれない

今日はずいぶん
早かったですね…

ずっと叶うはずがないと
私に知られないよう
悟られないよう
胸に秘めておくつもり
だったのだろう…

それでも魔が差してしまった…
あのカーディガンを
手に取ってしまった…

先生？

ああ先生…

まだ8回あるのだ…私は今すぐ襲ってほしいと口を滑らせないよう

我慢するのが精一杯だった――

とっても素敵な

こえ
鳴き声でした…

ねえねえ

里中は…

部内でもあまり
目立たない生徒だった—

せんせえ

朗 読 部





それでも妙に
気になる生徒で

じゃあ

里中から
順番に読もうか

ハイ

先生も
入ってわー

はい…

俺は

本を読み上げる時
普段あまり聞けない里中の
凛として透き通るようでありながら
柔らかく優しい声が

好きだった――





かみを
ほどくと二うなる

最近は順調ですね

先生

— 八 日 目 —

動画を消す約束まで

あと5回ですよ



人間とは
欲深い生き物だ…

ただそれを
一番遠くからで
あったとしても

先生の穏やかで
優しい声が好きだった

先生

今日も少し



聞いていられるだけで
良かったはずなのに…

お手伝い
しますね…

私は二人だけの秘密
という言葉にかこつけて

先生の…

お役に
立てれば

自分でもどんどん歯止めが
きかなくなっていくた

いいのですが…



それに伴って
先生の距離は段々

近くなり…



射精までのスピードは
どんどん早くなっていた

里中…
出…そうだ

はい
いつでも
いいですよ

先生が日に日に
我慢の限界にきている
のは明らかだった

あっ…
だめだ…

里中…ッ





それが私の中であつたなら

どれほど幸せだろうと
思うのだった――



でもそれは決して
私から口にしてはならない



私は既にそう思うまで
なってしまったのだ……









正直なところ
私たちはもうほとんど

今日は少し
疲れているので

椅子に座って
失礼しますね

性行為のための
前戯をしているような
ものだった――

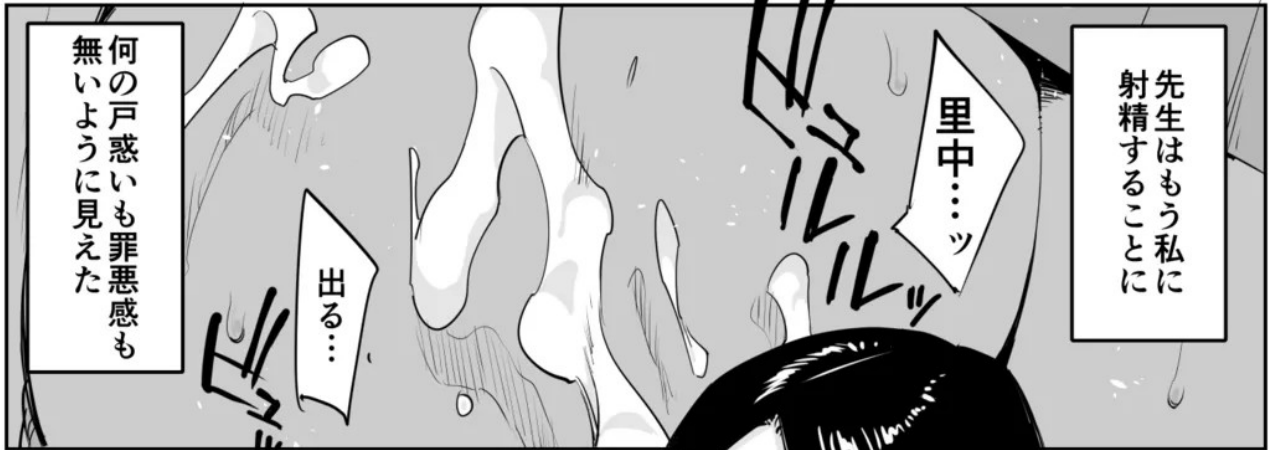


お互い決定的な事を
口にする事は無いが

こんなもの…
少しでも上に
向けられたら…

実際はギリギリの所で
踏みとどまっているに
過ぎなかった





56



こんなことにならない限り
先生が秘めていた気持ちは
明るみにならない様 ずっと先生は
自分を律し続けていたという事……

今日が終われば

最終日

全てが
無かった事になります

そう必死に抑えてきた上で
つい出来心で私のカーデイガンに
触れてしまった事――

57

動画を消し
私たちの間には何も
ありませんでした

その上で
とつくに私を押し倒したいという
気持ちで限界な癖に
肩にしか触れてはならないという
約束を律儀に守り続けている事――

何も無かった
ただの顧問と部員に
戻るのです

さあ
始めましょうか

私はその一つ一つに
気づくにつれ

先生を最初よりもずっと
愛おしく思うようにな
っていった――

ばっ

先生…

今日で
最後ですから

先生が
いけないのですよ…

特別大サービス
ですよ…先生



こんな…

あ…
里中…



…あ…

あ…

私と二人きりになった時
部を解散すればよかった

里中ッ

俺は…ッ

すまんッ

わッ



私に気を使って
部屋を出ていく事など
しなければよかった

私がつけ入る隙など
作らなければよかった



里中ッ！



里：中ッ
すまん：

すまない…ッ
すまん！

置き忘れたカーディガンなど
触れなければよかった



許して
くれ…ッ















私の中に果てたのを皮切りに

先生が私を求める勢いは
どんどん増していき

68



本当はこんなにも
情熱的な人だったのだと

朦朧とする意識の中で



私はひそかに喜びを
感じていた――

初めての性行為は
痛みを感じながらも
絶頂に達するという様な

「先生が我を忘れる程
私で気持ちよくなっている」

その事実だけで
私はこれ以上無い程満足していた

本で読み夜な夜な
夢想した程よいものでは
決して無かったが



まだこんなに
出るものなのですか

こんな味
私に性行為など
覚えさせなければよかった――

口におさまり
きりませんでした

まだまだ収まりそうに
無い顔をしていますね

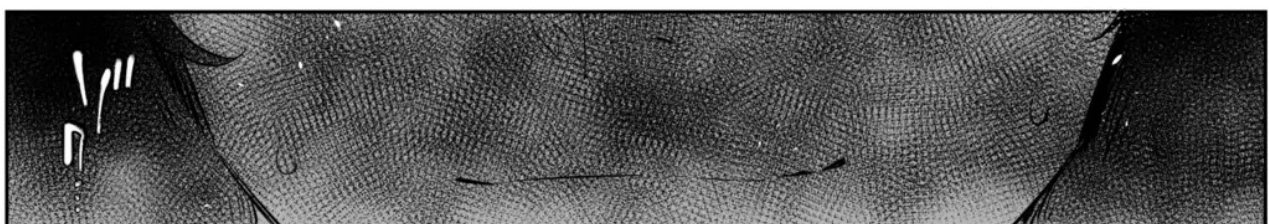
良いですよ
気のすむまで…

私から離れよう
などと思わないで
下さいね…

レ…♡

先生…











76





先生
先生の性器でなくては
ならないのだ…



あぁ…どうか
先生が早く私を襲って
くれますように…

お疲れ様ですEDです。

今回はエロ漫画です。

いにエロ！という

「エロゲが好きだけどエロゲを自分で作れないので漫画でエロゲを表現する漫画」
を描いてて、

現在はそれを描きながらエロ漫画を交互に描くという事をやっています。

いにエロに関してはしゃべることが沢山あるんですが、
今回の漫画には特に言う事がありません。

しいて言えば久しぶりになんというんだろうな、
自分のただただ描きたいように描いた。みたいな感じです。
いにエロに限らず、普段の本ってやっぱりエンタメというか
読者をちゃんと意識して描いてる感じがあるんですが、
今回のこのさとやんの漫画はあんまりそういうのを意識せず描きました。

そのせいもあってかもとは支援サイトでラフ漫画として描いてたもので、
原稿を作るにあたり殆ど全部描き直しくらいに手を入れたのですが、
描いてる最中いや この漫画俺の好みすぎるな〜って感じでした。
俺の好みすぎる漫画だ…というのは自分で描いてて実はなかなか無いので。

読者に対してはどっちがいいのかわからないですが、
エンタメをやりたいという気持ちで普段漫画を描いて発表してるけど、
こういうのもたまにはいいのかなという感じです。

普段描いてるようなラブコメとも言えないし ジャンルで言えば俺(ED)かもしれません。
ジャンル 俺 でよろしくをお願いします。

気に入ってもらえたら嬉しいです。

それではまた機会がありましたら…。

毎回あとかきに近況をかくと死んでしまうのですか？
みたいなあとかきになってしまうので今回は敢えて書きません。
皆様も体に気を付けてどうか健やかにお過ごしください。

ED

里中尚子と水島先生

ED

